

HIV 診断・検査法に係る研究

民間臨床検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査

研究分担者 加藤 眞吾 (株式会社ハナ・メディテック)
研究協力者 佐野 貴子 (神奈川県衛生研究所微生物部)
近藤真規子 (神奈川県衛生研究所微生物部)
須藤 弘二 (株式会社ハナ・メディテック)
今井 光信 (田園調布学園大学)

研究要旨

我が国における HIV 検査は、主として病院・診療所等の医療機関、保健所等無料匿名検査施設および郵送検査等で実施されている。医療機関における HIV 検査の実施方法としては、自施設での検査と、外部検査機関（民間臨床検査センター等）への検査業務委託がある。また、保健所等無料匿名検査においても、民間臨床検査センターに HIV 検査を委託する自治体が増加している。今回、民間臨床検査センターでの HIV 検査の実施状況を把握することを目的に、大手・中堅民間検査センター19 箇所を対象にアンケート調査を実施した。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が今年度も続いたことから、民間臨床検査センターにおける新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）検査の実施状況についても調査を行い、HIV 検査数および陽性数への影響等について解析を行った。

回答が得られた 19 箇所における HIV スクリーニング検査数は約 139 万件、スクリーニング陽性数は 1,739 件（スクリーニング陽性率 0.13%）であり、昨年より若干減少した。抗体確認検査はこれまで使用されてきた WB 法試薬が 2022 年 6 月に販売終了となったことから、2022 年 1～4 月にかけて新規確認 IC 法試薬（Geenius HIV 1/2 キット）への切り替えがなされていた。2021 年に WB 法を導入していたのは 6 箇所であったが、2022 年に確認 IC 法を導入あるいは導入予定なのは 4 箇所であり、新規試薬への切り替えにあたり検査の集約化が進んでいると思われた。WB 法での検査数は WB-1 が 1,779 件、WB-2 が 1,037 件、陽性数は WB-1 が 239 件、WB-2 が 14 件であり、WB-2 の単独陽性例はみられなかった。確認 IC 法の検査数は 5,872 件、HIV-1 陽性は 842 件、HIV-2 陽性は 11 件であった。HIV-2 陽性のうち、HIV-2 単独陽性が 2 件あり、HIV-1 も陽性であったのは 9 件であった。

SARS-CoV-2 検査は 18 箇所で行われていた。核酸増幅検査数は約 885 万件であり、昨年より約 1.2 倍の増加であった。全ゲノム解析検査は、昨年は 964 件であったが、2022 年は 23 万件に急増しており、厚生労働省の通知により自治体からの委託検査が増加したものと思われた。

民間臨床検査センターの実施状況の調査は我が国の検査状況および動向を調査するのに重要と思われる、今後も継続していく必要があると考える。

A. 研究目的

我が国における HIV 検査は、主として病院・診療所等の医療機関、保健所等無料匿名検査施設および郵送検査等で実施されている。医療機関における HIV 検査は、自施設で検査を実施している

ところと、外部検査機関（民間臨床検査センター等）に検査を業務委託しているところがある。また、保健所等無料匿名検査においても、民間臨床検査センターにスクリーニング検査および確認検査を委託する自治体が増加している。今回、

民間臨床検査センターにおける HIV 検査の実施状況を把握することを目的にアンケート調査を実施した。また、今年度も新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が続いていることから、民間臨床検査センターにおける新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 検査の実施状況についても調査を行い、HIV 検査数および陽性数への影響等について解析を行った。

B.研究方法

HIV 検査を実施している大手・中堅民間検査センター19 箇所に対して、HIV 検査実施に関する調査票を 2023 年 1 月に送付した (資料 1)。民間臨床検査センターは都道府県知事に衛生検査所として登録を認められた検査施設であり、令和元年 10 月 3 日現在で全国に 930 箇所ある¹⁾。このうち大手と呼ばれるセンターは 6 箇所である²⁾。

アンケート調査対象期間は 2022 年 1 月から 12 月とし、調査項目は、①1 次検査 (スクリーニング) 検査数および陽性数、②抗体確認検査数および陽性数、③スクリーニング検査試薬名、④スクリーニング検査結果の返却方法、⑤新規抗体確認検査試薬 Geenius の導入状況、⑥HIV-1 RNA 定量検査実施状況、⑦HIV 薬剤耐性検査実施状況、⑧SARS-CoV-2 検査実施状況、とした。調査票は返信用封筒により回収し、集計・解析を行った。

(倫理面への配慮)

アンケート集計に際して、結果から施設名等が特定できないように配慮した。

C.研究結果

調査対象とした大手・中堅民間臨床検査センター19 施設にアンケートを依頼したところ、全施設より回答が得られた (表 1)。HIV 検査項目別実施施設数は、スクリーニング検査実施が 18

箇所、抗体確認検査の WB 法実施が 5 箇所、IC 法実施が 3 箇所および導入予定が 1 箇所、HIV-1 RNA 定量検査実施が 4 箇所、HIV 薬剤耐性検査が 2 箇所であった (表 2)。また、自施設においてスクリーニング検査、抗体確認検査 (WB 法 +IC 法)、HIV-1 RNA 定量検査および HIV 薬剤耐性検査のすべてを実施している施設は 1 箇所であり、スクリーニング検査、抗体確認検査 (WB 法 +IC 法) および HIV-1 RNA 定量検査の実施施設は 2 箇所、スクリーニング検査と抗体確認検査 (WB 法) は 2 箇所、HIV-1 RNA 定量検査と HIV 薬剤耐性検査は 1 箇所、スクリーニング検査のみは 13 箇所だった (表 3)。

HIV 検査別の検査数および陽性数では、スクリーニング検査数は 1,387,316 件、スクリーニング陽性数は 1,739 件 (スクリーニング陽性率 0.13%) であった (表 4)。使用しているスクリーニング検査試薬はすべての施設が自動分析装置を用いた第 4 世代試薬であった (表 5)。

抗体確認検査はこれまで使用されてきた WB 法試薬が 2022 年 6 月に販売終了となったことから、2022 年 1~4 月にかけて新規確認 IC 法試薬 (Geenius HIV 1/2 キット) への切り替えがなされていた。WB 法の検査数は WB-1 が 1,779 件、WB-2 が 1,037 件、陽性数は WB-1 が 239 件、WB-2 が 14 件であり、WB-2 陽性の 14 件は WB-1 でも陽性であった (表 4)。確認 IC 法の検査数は 5,872 件、HIV-1 陽性は 842 件、HIV-2 陽性は 11 件であった。HIV-2 陽性例のうち、HIV-2 単独陽性が 2 件あり、他の 9 件は HIV-1/HIV-2 両方陽性であった。上記の WB-1 と IC 法を合計した抗体確認検査数は 7,651 件、陽性数は HIV-1 陽性が 1,081 件、HIV-2 陽性が 2 件であった。

HIV-1 RNA 検査の検査数は 87,700 件、HIV 薬剤耐性検査の検査数は 850 件であった。

スクリーニング検査結果が陽性となった場合

の結果の返却方法（複数回答可）は、単一のスクリーニング検査の結果をそのまま返却する施設が 8 箇所（そのうち、本項目のみに丸をつけた施設は 2 箇所）、異なる方法の HIV スクリーニング検査（二重検査）を行い、それらの総合判定結果を返却する施設が 5 箇所、一連の HIV 検査として引き続き同検体で確認検査を実施している施設が 3 箇所であった（表 6）。また、依頼先からの再検査により確認検査を実施しているのは 3 箇所、医師に確認検査が必要である旨を連絡する（連絡のみ）のは 7 箇所、医師に確認検査を行う項目を確認して検査を実施しているのは 4 箇所であった。

SARS-CoV-2 検査の実施状況は、実施しているのが 18 箇所、検討中が 1 箇所であった（表 7）。検査実施数は、PCR 検査が 17 箇所、8,767,681 件、抗原検査が 2 箇所、114,500 件、抗体検査が 12 箇所、468,750 件、変異株 PCR 検査が 5 箇所、406,888 件、全ゲノム解析が 2 箇所、233,020 件、その他（LAMP 法、TMA 法）が 2 箇所、80,570 件であった（表 8）。

D. 考察

今回、回答が得られた大手・中堅民間臨床検査センター 19 箇所において、HIV スクリーニング検査を実施している施設は 18 箇所、遺伝子検査のみの実施施設が 1 箇所であった。スクリーニング検査のみを実施する施設が 13 箇所あったが、抗体確認検査や HIV-1 RNA 定量検査は別の民間臨床検査センターに再委託されているところが多かった。

スクリーニング検査実施施設の 18 箇所、年間 1,387,316 件のスクリーニング検査が実施されていた。2021 年は 1,444,887 件であり、4%の減少となった。

使用試薬にはすべて自動分析装置を使用する第 4 世代試薬が用いられており、感染初期検出期

間が最短のスクリーニング検査試薬を導入していることが分かった。スクリーニング陽性数は 1,779 件でスクリーニング陽性率は 0.13%であったが、そのうちの確認検査での陽性数は今回のアンケート調査では把握が困難であった。

抗体確認検査はこれまで使用されてきた WB 法試薬が 2022 年 6 月に販売終了となったことから、2022 年 1～4 月にかけて新規確認 IC 法試薬に切り替えられていた。しかしながら、2021 年に WB 法を導入していたのは 6 箇所なのに対し、2022 年に確認 IC 法を導入および導入予定なのは 4 箇所であり、新規試薬への切り替えにあたり検査の集約化が進んでいると思われた。WB 法の検査数は WB-1 が 1,779 件、WB-2 が 1,037 件であり、これまでは WB-1 のみを依頼する医療機関もあったが、2022 年に確認 IC 法試薬に切り替えられたことで、依頼検体の全例に HIV-1 と HIV-2 の抗体確認検査の施行が可能となった。自動判定装置（Geenius リーダー）の導入により、型別判定が個人差なく均一化されることから、結果判定の質の向上に寄与すると思われる。

2022 年の WB-1 法と IC 法を合計した抗体確認検査数は 7,651 件、陽性数は HIV-1 陽性が 1,081 件、HIV-2 陽性が 2 件であり、HIV-2 陽性例が確認されていることから、今後の動向に注意する必要がある。現在、後天性免疫不全症候群の発生届には HIV-1/HIV-2 型の記載欄がなく、HIV-2 感染者数の把握が難しいことから、民間臨床検査センターでの HIV 検査陽性数の調査は重要である。また、HIV 検査陽性数はエイズ動向委員会の HIV 感染者/エイズ患者報告数に相当しており、民間臨床検査センターでの検査は重要な役割を果たしていることが分かった。HIV-1 RNA 検査の検査数は 87,700 件であり、例年とほぼ同程度の件数であった（昨年度の報告書では 2021 年の合計数は 54,900 件と報告したが、1 箇所、修正報告があ

り、その結果 87,900 件となった)。HIV 薬剤耐性検査の実施施設は 2 箇所を実施数は 850 件であった。

スクリーニング検査陽性の場合の結果の取り扱いについては、一連の HIV 検査として引き続き同検体で WB 法を実施している施設が 3 箇所、医師に確認検査項目を確認して検査を実施する施設が 4 箇所（うち、どちらの項目にも回答した施設が 1 箇所あり）で、重複回答を除く 6 箇所においては、スクリーニング検査陽性例の多くが確認検査に繋がっていると思われた。これら 6 箇所のスクリーニング検査数は 723,353 件（52%）であった。一方、単一のスクリーニング検査の結果をそのまま返却すると回答した 8 箇所のうち、この項目にのみに丸をした施設は 2 箇所であり、その施設の確認検査の実施は担当医師の結果判断に任せられていると思われた。

SARS-CoV-2 検査の実施状況は、18 箇所が実施しており、PCR 検査とその他の核酸増幅検査法を合わせて、約 885 万件の検査が実施されていた。昨年は約 747 万件で、約 1.2 倍の検査数の増加となっていた。全ゲノム解析は、昨年は 964 件であったが、2022 年は 23 万件に急増しており、厚生労働省の通知³⁾により自治体からの委託検査が増加したものと思われた。検査項目は核酸増幅検査、抗原検査、抗体検査、変異株 PCR 検査、全ゲノム解析と多岐に亘っており、民間臨床検査センターの業務量の増大が示されたが、スクリーニング検査数・陽性数の集計からも、民間臨床検査センターでの HIV 検査依頼状況等への影響はあまりなかったと思われた。

民間臨床検査センターには診療所の多くや病院の半数程度が検査業務委託をしている⁴⁾。また、保健所等無料匿名検査においても、検査委託を行う自治体が増えており、民間臨床検査センター18 施設でのスクリーニング検査数は約 139 万件に上

っている。また、SARS-CoV-2 の核酸増幅検査は約 885 万件実施されており、民間臨床検査センターが担う検査機関としての重要性が認識された。民間臨床検査センターの実施状況調査は我が国の検査状況および動向を把握するのに有効と思われる、今後も継続した調査が必要である。

E. 結論

大手・中堅民間検査センター19 箇所中スクリーニング検査実施施設 18 箇所において、年間約 139 万件の HIV スクリーニング検査が実施されている。抗体確認検査の陽性数は 1,083 件であり、エイズ動向委員会で報告されている HIV 感染者/エイズ患者数に相当していた。2022 年に HIV-2 陽性が 2 件検出されており、その動向には注意が必要である。また、SARS-CoV-2 の核酸増幅検査も約 885 万件実施されており、民間臨床検査センターが担う検査の重要性が認識された。

謝辞

COVID-19 流行下による検査業務等で大変ご多忙の中、本アンケート調査にご協力頂きました民間臨床検査センターのご担当者様に厚く御礼申し上げます。

F. 健康危険情報

なし

(参考文献)

- 1) 日医発第 682 号（保 133）日本医師会長通知。厚生労働省が行う衛生検査所検査料金調査に対する協力について、令和元年 10 月 3 日
- 2) 株式会社矢野経済研究所：2022 年版臨床検査センター経営総鑑
https://www.yano.co.jp/market_reports/C641

00500 (2023/2/20 アクセス)

- 3) 健感発 0 205 第 4 号、厚生労働省健康局結核感染症課長通知、新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株 PCR 検査について (要請)、令和 3 年 2 月 5 日、令和 3 年 12 月 2 日一部改正
- 4) 加藤真吾、須藤弘二、病院における HIV 検査に関するアンケート実態調査。HIV 検査受検勧奨に関する研究—平成 28 年度総括・分担研究報告書、P109-122

G.研究発表

1. 論文発表

- 1) 高木律男、田邊嘉也、須藤弘二、山田瑛子、加藤真吾、SARS-CoV-2 感染診断のための PCR 検体採取法および診断精度—口腔からの検体採取法の検討。日本環境感染学会誌。37(4)、139-142、2022..

2. 学会発表

- 1) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤真吾。HIV 郵送検査に関する実態調査(2022)。第 36 回日本エイズ学会学術集会、浜松市、2022 年。
- 2) 土屋菜歩、佐野貴子、城所敏英、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史。COVID-19 流行下での保健所・特設検査所における HIV 検査・相談実施状況と課題及び工夫。第 36 回日本エイズ学会学術集会、浜松市、2022 年。
- 3) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、櫻木淳一、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、今村顕史。COVID-19 流行下における民間臨床検査センターでの HIV 検査等の実施状況に関する検査。第 36 回日本エイズ学会学術集

会、浜松市、2022 年。

- 4) 近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、井戸田一朗、土屋菜歩、貞升健志、今井光信、加藤真吾、櫻木淳一、中澤よう子、今村顕史。新型コロナウイルス感染症流行禍の 2 年間(2020-2021 年)における HIV 検査体制の実態。第 36 回日本エイズ学会学術集会、浜松市、2022 年。
- 5) 小島賢一、加藤真吾、長尾 梓、久慈直昭。精液洗浄技術を利用した挙児希望相談—最近 10 年間の傾向—。第 36 回日本エイズ学会学術集会、浜松市、2022 年。
- 6) 川畑拓也、浜みなみ、阪野文哉、森 治代、加藤真吾、今村顕史。Geenius と WB 法の感度・鑑別能の比較。第 36 回日本エイズ学会学術集会、浜松市、2022 年。

H.知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

①特許取得

なし

②実用新案登録

なし

③その他

なし

民間検査センターにおけるHIV検査実施状況に関するアンケート結果(2022年)

表1 アンケート送付数および回収数

	施設数
送付数	19箇所
回収数	19箇所(100%)

表2 HIV検査項目別実施施設数(19箇所中)

検査項目	実施施設数	導入予定	外部委託数	実施なし
スクリーニング検査	18箇所	—	0箇所	1箇所
抗体確認検査 WB法	5箇所	—	—	—
抗体確認検査 IC法(Geenius)	3箇所*	1箇所**	12箇所	3箇所
HIV-1 RNA定量検査	4箇所	—	13箇所	2箇所
HIV薬剤耐性検査	2箇所	—	6箇所	11箇所

* 実施時期: 2022年1月、2022年3月、2022年4月

** 導入予定時期: 2023年3月

表3 自施設での検査実施項目別施設数(19箇所中)

自施設での検査実施項目	施設数
スクリーニング検査、抗体確認検査(WB+IC法)、HIV-1RNA定量検査、HIV薬剤耐性検査	1箇所
スクリーニング検査、抗体確認検査(WB+IC法)、HIV-1RNA定量検査	2箇所
スクリーニング検査、抗体確認検査(WB法)	2箇所
HIV-1 RNA定量検査、HIV薬剤耐性検査	1箇所
スクリーニング検査のみ(確認検査項目は委託を含む)	13箇所

表4 HIV検査別検査数および陽性数

検査種別	検査数	陽性数
スクリーニング検査(18箇所)	1,387,316件	1,739件(陽性率0.13%)
抗体確認検査 WB-1(5箇所)	1,779件	239件
抗体確認検査 WB-2(4箇所)	1,037件	14件
抗体確認検査 IC法(3箇所)	5,872件	HIV-1陽性 842件
		HIV-2陽性 11件
HIV-1 RNA定量検査(4箇所)	87,700件	—
HIV薬剤耐性検査(2箇所)	850件	—

・WB-1/WB-2
両方陽性数 14 件
 ・HIV-2陽性数 2件
 ・HIV-1/HIV-2
両方陽性数 9件

表5 スクリーニング検査(1次検査)の使用試薬について(18箇所中)

使用試薬	施設数
第4世代	18箇所
第3世代	0箇所

表6 スクリーニング検査で陽性となった場合のその後の取り扱いについて(複数回答可、18箇所中)

結果通知方法	施設数
A) 単一のスクリーニング検査結果をそのまま返す。	8箇所
B) 異なる方法のHIVスクリーニング検査(二重検査)を行ない、両方の結果を返す。	0箇所
C) 異なる方法のHIVスクリーニング検査(二重検査)を行ない、総合判定結果を返す。	5箇所
D) 一連のHIV検査として、同じ検体で、確認検査を実施する。	3箇所
E) 依頼先からの再依頼により確認検査を実施する。	3箇所
F) 医師に確認検査が必要である旨を連絡する(連絡のみ)。	7箇所
G) 医師に確認検査項目を確認し、希望する確認検査を実施する。	4箇所
H) その他*	4箇所

* その他の記載事項

- ・陽性の場合、報告書に「確認検査(IC法、遺伝子検査法)を実施してください」とのコメントを記載する。
- ・一連のHIV検査として、同じ検体で、IC法のみを行う。
- ・10分間15000rpmの超遠心をマイクロチューブの血清で行い、その後上清をとり、再度HIVの測定をする。陽性の場合、「感染確定には確認試験が必要」のコメントを付与する。
- ・スクリーニング検査結果を報告する際に「診療におけるHIV-1/2感染症のガイドライン2020版」の資料を添付して、医師に確認検査依頼を推奨している。

表7 新型コロナウイルス検査の実施状況について(19箇所中)

実施状況	施設数
実施している	18箇所
検討中	1箇所
導入の予定なし	0箇所

表8 新型コロナウイルス検査実施数

検査種別	検査数
PCR検査(17箇所)	8,767,681件
抗原検査(2箇所)	114,500件
抗体検査(12箇所)	468,750件
変異株PCR検査(L452Rなど)(5箇所)	406,888件
全ゲノム解析(4箇所)	233,020件
その他(LAMP法、TMA法)(2箇所)	80,570件

HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨に関する研究

研究代表者 今村 顕史（東京都立駒込病院）
研究分担者 加藤 眞吾（(株) ハナ・メディテック）
アンケート事務局 佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）

〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋 1-3-1 Tel. 0467-83-4400 Fax. 0467-83-4457

E-mail kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

令和5年1月4日

HIV 検査責任者・担当者の皆様

HIV 検査に関するアンケートのお願い

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。さて、本年度も民間検査機関における“HIV 検査に関するアンケート調査”を実施させて頂きたく存じます。また、新型コロナウイルス感染症の流行が続いていることから、HIV 検査への影響についても調査させていただきたく、設問に入れさせていただいております。

検査業務で大変お忙しいところ申し訳ございませんが、別紙のアンケートにご記入の上、**令和5年1月27日（金）**までに郵便または FAX にてご返送をお願い申し上げます。

お答えいただいた回答は日本の HIV 検査の実態を把握する上で大変貴重なデータとなりますので、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。また、これら HIV 感染の疫学調査に関連しまして、何か参考になります情報等がございましたら是非お知らせくだされば幸いです。

なお、アンケートの集計結果は報告書および学会発表等に用いさせて頂くことがありますことをご了承ください。発表に用いるデータは集計結果のみを使用し、個別の施設名が分かる形で公表することはありません。

このたび WB 法が販売終了となり、新しい抗体確認検査試薬（IC 法：Geenius）を用いた HIV 感染症の診断ガイドラインの改訂が行われました。今後も HIV 検査の質の向上のため、皆様と共に努めて参りたいと考えております。

何かご不明の点がございましたら kensahan@m10.alpha-net.ne.jp までご連絡下さい。今後ともご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究分担者 加藤 眞吾

アンケート回収 FAX 送信先：神奈川県衛生研究所 佐野貴子 宛 FAX:0 4 6 7 - 8 3 - 4 4 5 7

HIV 検査に関するアンケート (R4/2022 年)

施設名： _____
 HIV 検査責任者： _____
 検査担当者： _____ (部署名)
 住所：〒 _____
 TEL. _____ FAX. _____ E-mail _____

1. 2022 年 (1~12 月) のスクリーニング検査数とその結果についてお答えください。
 (HIV 陽性者のフォローアップ検査や再検査例を除いた**初回検査**と思われる例について)
 ※昨年報告の 2021 年の検査数等の数値に変更がある場合にはお知らせください。

	1 次検査(スクリーニング)			1 次検査陽性例の 2 次検査※			確認検査					
							WB 法				IC 法	
	キット名	検査数	陽性数	キット名	検査数	陽性数	WB-1 検査数	WB-2 検査数	WB-1 のみ 陽性数	WB-2 のみ 陽性数	Geenius HIV-1 陽性数	Geenius HIV-2 陽性数
2022 年 1-12 月												

※ スクリーニング検査試薬で二重検査を行っている場合の結果

2. スクリーニング検査で陽性となった場合のその後の扱いについてお答え下さい (複数回答可)。
- A) 単一のスクリーニング検査結果をそのまま返す。
 B) 異なる方法の HIV スクリーニング検査 (二重検査) を行ない、両方の結果を返す。
 C) 異なる方法の HIV スクリーニング検査 (二重検査) を行ない、総合判定結果を返す。
 D) 一連の HIV 検査として、同じ検体で、
 (①WB 法のみ ②WB 法+遺伝子検査法 ③遺伝子検査法のみ) を行う。
 E) 依頼先からの再依頼により確認検査
 (①WB 法のみ ②WB 法+遺伝子検査法 ③遺伝子検査法のみ) を行う。
 F) 医師に確認検査が必要である旨を連絡する。
 G) 医師に確認検査項目を確認し、希望する確認検査を実施する。
 H) その他 ()
3. 新しい抗体確認検査試薬 (IC 法/Geenius (バイオ・ラッド社)) は導入されていますか?
 A) 自施設で検査 (年 月より導入)
 B) 検査を外部委託 (年 月より委託/委託先名:)
 C) 導入予定なし
4. 現在、HIV-1 RNA 定量検査を実施していますか。
 A) 自施設で検査 → <方法> 試薬名: _____
 検査数: 約 _____ 例/年
 B) 検査を外部委託 (委託先: _____)
 C) 実施していない

5. 現在、HIV 薬剤耐性検査を実施していますか。

- A) 自施設で検査 → <方法> 試薬名： _____
 検査数： 約 _____ 例/年
- B) 検査を外部委託 (委託先： _____)
- C) 実施していない

6. 新型コロナウイルス検査を行っていますか。

- A) 行っている (_____ 年 _____ 月から実施)
- B) 検討中 (実施予定がある場合： _____ 年 _____ 月から)
- C) 導入の予定なし

7. 新型コロナウイルス検査を行っている場合、検査法と検査試薬名を教えてください。

検査法	実施の有無	検査試薬名	検査実施数 (2022年1~12月)
PCR 検査 (N 遺伝子等スクリーニング)	実施 ・ 未実施		約 _____ 件
抗原検査	実施 ・ 未実施		約 _____ 件
抗体検査	実施 ・ 未実施		約 _____ 件
変異株 PCR 検査 (G339D など)	実施 ・ 未実施		約 _____ 件
全ゲノム解析	実施 ・ 未実施		約 _____ 件
その他 (_____)	実施 ・ 未実施		約 _____ 件

8. HIV 検査に関すること、研究班への意見、提案、要望等がございましたらご自由にお書き下さい。
 特に、新型コロナウイルス流行による HIV 検査数・陽性数への影響等についてお気づきのことが
 ございましたら教えていただけるとありがたいです。

ご協力ありがとうございました。

アンケート締め切り： 令和5年1月27日(金) (郵送・FAX)